

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
「在宅医療の提供体制の評価指標の開発のための研究」  
分担研究報告書

神経難病患者の退院支援に関する文献調査に関する研究

研究分担者 篠田道子（日本福祉大学社会福祉学部 教授）  
研究協力者 榊原麻子（刈谷豊田総合病院）  
研究協力者 橋口桂子（国立病院機構名古屋医療センター）  
研究協力者 手島浩司（済衆館病院）

研究要旨

【目的】神経難病患者の退院支援に関する研究の動向を把握し、現時点における研究上の到達点と課題を整理する。【方法】データベース CiNii と医学中央雑誌 Web 版を用いて検索した。【結果】神経難病の退院支援の研究対象文献は 28 文献であった。内容は、①自宅退院を可能にする要因、②フローチャートの導入と多職種連携、③神経難病患者の退院支援の課題の 3 つに分類した。【考察】退院支援に関する多職種連携の報告は多いが、神経難病患者の退院支援の指標開発と評価に関する文献は見当たらなかった。神経難病は多様な病態と経過に特徴があることから、①経時的変化とそれに対応した医療・介護を指標化すること、②タイムリーなカンファレンスの開催が求められることが示唆された。

A. 研究目的

神経難病患者の退院支援に関する研究の動向を把握し、現時点における研究上の到達点と課題を整理する。

B. 研究方法

文献は、CiNii と医学中央雑誌 Web 版を用いて検索した。キーワードは、「神経難病」and「退院支援」、「神経難病」and「在宅療養」、「神経難病」and「MSW（医療ソーシャルワーカー）」、「神経難病」and「多職種連携」、「退院支援」and「指標」とした。

C. 研究結果

データベースより抽出された文献のうち重複している文献を整理し、テーマに関係

する 28 文献を研究対象文献とした。

1) 対象文献の種類

文献の種別は、原著論文が 10 文献、解説論文が 18 論文であった（表 1）。

2) 神経難病患者の退院支援に関する内容

28 文献の内容は、「自宅退院を可能にする要因」、「フローチャートの導入と多職種連携」、「神経難病患者の退院支援の課題」の 3 つに分類した。

(1) 自宅退院を可能にする要因

自宅退院が可能になった要因として、①病状や症状が改善したことへの自信、②在宅サービス利用に対する抵抗からの解放、③家族との生活が継続できることの見通しである。

(2) フローチャートの導入と多職種連携

退院支援のフローチャートやアセスメントシートを多職種で共有していた。カンファレンス、勉強会、ICT の活用などに取り組んでおり、退院支援の充実が示唆された。退院支援に関する多職種連携の報告は多いが、神経難病患者の退院支援の指標開発と評価に関する文献は見当たらなかった。

### (3) 神経難病患者の退院支援の課題

病棟看護師の課題として、①退院後の生活のイメージが描きにくい、②入院時から在宅生活を見据えた医療・介護技術支援や家族支援を展開できにくいことが、病院組織の課題として、③退院前カンファレンスなどは実施されているが、神経難病患者の病状が不安定なことから、情報や目標の共有化に限界があることなどが明らかになった。

## C. 考察

### 1) 神経難病患者の退院支援の指標開発の必要性と課題

アセスメントシートの共有化など退院支援の充実が示唆されるも、指標開発と評価に関する研究は見当たらなかった。理由として、①神経難病患者の病態像が多様なため、一つの指標でプロセスを展開することへの限界がある、②病名告知や病気の受容など、意思決定支援と退院支援が同時に進んでいくことが多いため、多職種を巻き込んだ支援のタイミングが難しいなどである。

神経難病は多様な経過が展開されるも、疾患の経時的変化とそれに対応した医療・介護の指標化が求められる。

### 2) 退院支援のカンファレンスを増やす

退院時カンファレンスは実施されているが、①病状が変化しやすい、②治療方針がな

かなか決められないことから、タイムリーなカンファレンスの開催が難しい状況にある。

このような状況を鑑みると、一度に多くのことを決定するよりは、少人数でも良いので、タイムリーなカンファレンスを複数回開催する方が現実的であるといえる。

その際、コーディネーターとなる人物(退院支援看護師等)を決めて、コーディネーターを中心にカンファレンスを開催し、決定したことを、ICT を活用して多職種に伝達するなどの工夫が求められる。

## D. 結論

神経難病患者の退院支援には、①自宅退院を可能する要因に働きかける、②フローチャートなどを活用した多職種連携が展開されるなど、退院支援の充実が示唆された。

その一方で、病態像が多様で、病状が変化しやすいことから、一つの指標でプロセスを展開することの限界はあるものの、疾患の経時的変化とそれに対応した医療・介護を指標化とタイムリーなカンファレンス開催の必要性が明らかになった。

## E. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## F. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

表1 対象文献

	タイトル	著者	発表年	発表雑誌	検索ワード
1	退院支援 神経難病患者を介護する家族の在宅移行に影響を及ぼす要因 人工呼吸器を装着した患者が自宅退院困難となった事例を振り返る	上山みさき	2018	難病と在宅ケア (1880-9200)24巻2号 Page37-41 (2018.05)	神経難病 退院支援
2	神経難病患者の在宅療養への円滑な移行を可能にする熟練看護師の実践	坂野恵子	2017	日本難病看護学会誌 (1343-1692)22巻2号 Page143-159 (2017.12)	神経難病 退院支援
3	神経難病患者家族介護者の介護負担と被介護者の個人要因との関連	山川久美子	2017	日本看護学会論文集:慢性期看護 (2188-6466)47号 Page107-110	神経難病 退院支援
4	退院支援システムの導入と看護師の意識と行動の変容	河野彩子	2014	日本看護学会論文集 地域看護44号Page71-74	神経難病 退院支援
5	看護師が関わった退院支援業務実績の検討 基礎的データからの考察	森田伸子	2010	香川県看護学会誌 (1884-5673)1巻 Page47-50	神経難病 退院支援
6	神経内科病棟における在宅療養へ向けての第一歩 退院支援プログラムを導入して	松苗みゆき	2010	日本看護学会論文集 地域看護40号Page160-162	神経難病 退院支援
7	大学病院訪問看護師が発揮するコーディネーター的役割の必要性	加々美舞湖	2007	日本看護学会論文集 地域看護37号Page249-251	神経難病 退院支援
8	特定機能病院における神経難病医療専門員の外来患者フォローアップ	飯田苗恵	2005	日本難病看護学会誌 (1343-1692)9巻3号 Page171-178	神経難病 退院支援
9	神経系難病患者の在宅移行期における課題	西島 治子	2005	滋賀医科大学看護学ジャーナル (1348-7558)3巻1号 Page87-94	神経難病 退院支援 在宅移行期
10	神経難病患者の在宅療養支援に対する訪問看護師の不安と困難感、負担感	曾根 志穂	2018	石川看護雑誌 (1349-0664)15巻 Page75-82	神経難病 在宅療養
11	神経内科を主とした病院における病棟看護師の神経難病患者への退院支援に関する実態	杉本 美帆	2017	日本難病看護学会誌 (1343-1692)22巻1号 Page70	神経難病 退院支援
12	ALS患者の在宅療養を取り巻く現状	後藤順子	2000	山形保健医療研究 (1343-876X)3巻 Page17-22	神経難病 在宅療養
13	国立医療における「ウェルビーイング」の所在「患者の立場に立ったより細かな対応」を行える相談体制たりうるためには 重度神経難病患者の療養・退院・在宅支援 ソーシャルワーク機能との関連	久保 裕男(国立病院機構南九州病院 地域医療連携室)	2010	医療 (0021-1699)64巻9号 Page594-599	神経難病 MSW (医療ソーシャルワーカー)
14	急性期病院における神経内科病棟の退院援助の現状と課題	河合 由美,天野 博之,土屋 友香理,近藤 尚人,時田 裕子,安田 武司,伊藤 泰広,安藤 嘉朗,中西 浩隆	2005	トヨタ医報 (1343-9685)15巻 Page96-99	神経難病 MSW
15	在宅療法患者に関わる関係機関との連携を考える MSWがやりにくさを感じた在宅神経難病患者の事例より	鎌野 真理子(東京女子医科大学附属第二病院 看護部),長谷川 美穂	2004	東京女子医科大学雑誌 (0040-9022)74巻4号 Page229	神経難病 MSW
16	神経難病患者・家族に対する地域福祉との協働援助について MSWの立場から	水上 瑠美子	1985	医療と福祉 (0287-1521)19巻2号 Page87-92	神経難病 MSW
17	神経難病 本当に患者が望む医療を提供するためには 神経難病の当事者の退院先選択に関する事例を通しての考察(会議録)	橋本 睦美(国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター 医療福祉相談室)	2014	日本在宅医学会大会 16回 Page97	神経難病 医療ソーシャルワーカー
18	【神経疾患common diseaseの診かた 内科医のためのminimum requirement】 専門医との連携が重要な神経疾患の診かた どうコンサルトするか/どうフォローするか 神経疾患の在宅療養支援	高橋 貴美子(札幌中央ファミリークリニック)	2011	Medicina(0025-7699)48巻8号 Page1442-1446	神経難病 医療ソーシャルワーカー
19	神経難病患者におけるモバイル端末を用いた在宅チームケアシステムの有用性	日根野 晃代(信州大学 医学部脳神経内科リウマチ・膠原病内科),中村 昭則,宮崎 大吾,滝沢 正臣	2013	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)9巻2号 Page145-147	神経難病 多職種連携 原著論文

20	併設病院への定期的な病棟訪問を試みて 顔のみえる連携	篠原 かおる, 小野 友子, 寺内 早苗, 中山 美由紀	2006	癌と化学療法 (0385-0684)33巻 Suppl.II Page332-334	神経難病 多職種連携 原著論文
21	遠隔医療を活用した在宅神経難病患者のネットワーク強化の試み 高度医療機器を装着した高齢者夫婦ケースへの活用事例から	西田 厚子, 西島 治子, 宮田 克子, 伊波 早苗, 本田 育美	2004	日本難病看護学会誌 (1343-1692)9巻2号 Page136-143	神経難病 多職種連携 原著論文
22	神経難病患者の在宅療養に向けての関わり 筋萎縮性側索硬化症の症例を通して	成松 真由美, 出口 純子, 江島 さおり, 山下 麻衣子, 有本 智世, 山田 すみ子	2000	日本リハビリテーション看護学会 学術大会集録 12回 Page21-23	神経難病 多職種連携 原著論文
23	病棟看護師の退院支援における包括的評価指標の作成	山本 さやか, 百瀬 由美子	2017	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262)40巻5号 Page837-848	退院支援 指標 原著論文
24	我が国の退院支援・退院調整のシステム化に向けた研究動向	前田 明里, 加藤 愛, 荒山 千智, 鈴木 理恵, 進藤 ゆかり	2015	北海道公衆衛生学雑誌 (0914-2630)28巻2号 Page151-159	退院支援 指標 原著論文
25	院時アセスメントシートを活用した退院支援の早期介入の試み	東嵩西 寿枝, 山城 千秋, 新城 民子, 大松 真紀, 仲宗根 幸子, 鳥袋 幸代, 仲宗根 孝子, 照屋 洋子	2012	沖縄県看護研究会集録 (1882-4986)27回 Page119-122	退院支援 指標 原著論文
26	退院支援の早期着手と看護師の意識変化 退院支援・調整スクリーニングシートを導入して	佐藤 奈緒子, 坂西 未帆, 木村 富士子, 中島 安恵	2011	東京医科大学病院看護研究集録 (1348-9259)31回 Page52-56(2011.02) 抄録を見る	退院支援 指標 原著論文
27	退院支援のなかで高齢の家族が表出した不安内容の分析	西川 悠紀, 中村 司, 福田 晶子	2010	日本精神科看護学会誌 (0917-4087)53巻3号 Page282-286	退院支援 指標 原著論文
28	退院前合同カンファレンスにおける家族への退院支援の評価 家族の生活力量アセスメント指標からの分析	中嶋 敬代, 西村 容子, 齋藤 由美	2005	日本看護学会論文集: 地域看護 (1347-8257)35号 Page93-95	退院支援 指標 原著論文